

実施報告書

HT25134 詠まれた句の世界を理解して絵画とアニメーションを創作しよう！！



開催日：平成25年12月25日(水)

実施機関：金沢学院大学
(実施場所) (2号館232パソコン室)

実施代表者：高田 伸彦
(所属・職名) (美術文化学部・教授)

受講生：高校生34名

関連 URL：

【実施内容】

<本プログラムの留意点と工夫点>

本プログラムの内容は、毎年、基本的には変化が少ないが、我々の研究の内容を反映して実施している。今回も、文学(俳句・連句)を題材として、それを芸術的(静止画・アニメーション)表現するという研究テーマをベースにしている。今回は、学会で発表した内容をよりテーマに近づけた内容とした。今回も、ほとんどの受講生が芸術デザイン系であり、文学的にはあまり深く意味を把握しようとしないうえ、いかに理解しやすく興味を持てる講義が出来るかが重要であった。そのため、下記の事柄に留意、工夫して実施した。

- ・本研究の実施分担者である文学部の柳澤教授が俳句・連句の講義を行ったが、できる限りビジュアル的な要素を多くする等の工夫をして受講生の文学的な理解を図った。
- ・俳句や連句に関しても理解しやすいように、今回は、「腰伸ばしつつ柿吊るす老」という句を採用し、身近な題材で講義し、デザイン系の受講生に受け入れやすいようにした。
- ・今年度も制作ツールとしてPhotoshopとFlashのソフトウェアを使用した。Flashは最新バージョンを用いて新しい機能を活用し、受講生により快適な環境を提供した。
- ・PhotoshopやFlashは、初めて使用する受講生もかなりいたため、分かり易く指導すると共に、実施協力が個人的なサポートを行った。特に、Flashはほとんどの受講生が初めてだったため、ゆっくり反応を見ながら講義を進めるように心がけた。
- ・静止画を描くのが午前中の課題であったが、毎年度時間内に完成しない受講生がいるため、課題をシンプルにした。そのため受講生は余裕ができたので、もう少し深く連句の意味を考え描画するように指導した。

<当日のスケジュール>

- 09:00-09:30 金沢駅からバスで学校まで送迎
- 09:30-09:40 受付の開始・教室への移動
- 09:40-10:00 開講式(あいさつ、オリエンテーション)
- 10:00-10:40 俳句と連句に関する講義 + 休憩
- 10:40-11:20 科研費の説明、研究の紹介と成果に関して
- 11:20-12:10 Photoshopによる俳句と連句の演習
- 12:10-13:00 軽食(弁当、茶菓等の配布)
- 13:00-14:00 Flashによる俳句と連句の演習
- 14:10-14:50 アニメーション鑑賞・発表等
- 14:50-15:20 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 15:20 終了・解散 バスで金沢駅まで送迎

<実施の様子>

上記に記載したプログラムに沿って実施し、様子としては以下の通りであった。

最初に開講式として、あいさつとオリエンテーションを簡単に済ませ、科研費の重要性の説明と活用の仕方を中心に説明した。その際、配付したパンフレットとインターネット上のホームページを利用して説明した(担当 高田)。その後、30分程度、柳澤教授より俳句と連句に関する講義を実施した(Photo1)。特に、文学的な面白さを伝えるように心がけ、内容に関しては今回採用した「腰伸ばしつつ柿吊るす老」の

句を中心に講義を行った。この講義に関しても、前句の説明も含め理解しやすい講義をするように心掛けた。10分程度休憩の後、現在の我々の研究の紹介と成果に関して、2D・3DCGアニメーションを中心に説明した。その際、現在までに発表した論文のサマリと実際に制作したアニメーションを見せ解説した。今回は特に、3D関係のアニメーションを中心に解説をしたので、3Dアニメーションの抽象画も含め提示した(Photo2)。

次に、吉田講師によるPhotoshopによる俳句と連句の演習において、おじいさんの絵を制作した(Photo3)。今回参加した受講生は、絵を描くことが好きであり、時間的余裕をもって描ける受講生が多かった。ほとんどの受講生は時間内に終了できたが、より完成度を増すために休み時間も積極的に絵に手を加えていた受講生もいた。受講生は各自が思うおじいさん像を描いており個性的なおじいさんがたくさん制作された。その後、1時間ほど食事の時間を取った。食事は、教員、スタッフと一緒に取り、比較的無口な受講生にも話しやすい環境を整える等コミュニケーションを図った(Photo4)。

午後からは午前中に作成した静止画をもとに、Flashによるアニメーションの制作に取り組んだ(Photo5)。担当は高田が行った。昨年度と同様にMac上での操作であり、Windowsに慣れ親しんだ受講生の中には、戸惑う者もいたが、実施協力者を配備(3~4名の受講生に対し、1名のスタッフ)したため、あまり支障なくスムーズに操作できた。動画作成ツールであるFlashに関しては、初心者の受講生が多く、担当教員(高田)の提示と連動させ、受講生の進捗を常に確認しながら、落ちこぼれが出ないように配慮した。Flashは、操作手順を間違えると最初からやり直す必要があるため、出来る限り同期を取って操作が間に合うように配慮した。途中で行き詰まる受講生も若干いたが、その場合は、Flashに慣れている実施協力者に支援させ対応した。完成の後、全員の作品をディスプレイに表示し相互に作品鑑賞し合い、講評などを述べた。他の受講生の作品を鑑賞することは、非常に盛り上がり受講生を楽しませる大きな要因となった。その後、アンケート記入と修了式を実施し、ひとり一人に、未来博士号の修了証書を手渡した(Photo6)。その後、受講生をバスで金沢駅まで送った。



Photo1 俳句・連句の講義



Photo2 3D作品



Photo3 Photoshopの講義



Photo4スタッフと仲良く昼食



Photo5 Flashの講義



Photo6 未来博士号の授与

<協力体制>

事務局との協力体制は、例年のことであるが非常に良かったと言える。実施の面では、特に、教員が見落としがちな面を中心に的確に補完してもらった。受講生募集ならびに、当日の実施準備も、今回のプログラムを円滑に実施できるよう相互に協力した成果は大きいと言える。教員は、授業内容を中心に教材作成や教育内容に気を取られ、事務的な面では、疎かになりがちになり、作業項目漏れやスケジュール遅延をすることも予想された。しかし、事務局のスケジュール管理ならびにきめ細かい支援のおかげで、遅滞なく実施できた。また、予算管理なども十分対応してもらった。

<広報体制>

広報に関しては、特に地方の場合、人間的な接触が大切であり本学の入試広報部の支援も受け、高校訪問、ならびに、本学の資料を関係生徒に送付した。今まで培った高校との繋がりを生かし、ポスターに関しては、各学校や関係部署などに送付し、貼ってもらうよう依頼した。また、身近なところでは、本学の学生の関係者(兄弟姉妹等)を中心に資料を配布してもらった。さらに、昨年度お願いした学校などにも積極的に働きかけ定員の確保に努め、また、新規開拓のため、他の接点を有効に活かすよう心がけた。

<安全体制>

安全体制に関しては、ほぼ万全を図ったが、今年度は、気分の悪くなった受講生や怪我もなく支障なく実施できた。実施協力者も気を配り、教員と連携を図って安全面に配慮できた。芸術系の受講生の中には作品制作に没頭し、時間を忘れて作業する者もいたので、目の疲れや肉体的な疲労が蓄積しないように配慮した。そのため、休憩の時間には、必ず席を離れ深呼吸などして体調を整えリフレッシュさせることに気を配った。

<今後の発展性・課題>

今回、受講生の確保は、非常にスムーズで定員を超える34名の参加があった。今回で5回目の実施であるが、知名度も上がり受講生が定員を充足していることから、地域振興にはかなり貢献できていると思う。ただし、スタッフの人数及びパソコン室の収容人数に限りがあるため、講義のスムーズな進行や安全面を考えると、定員は30名に抑えたい。

Flashの操作はほとんど高校で実施しておらず、少し遅れる受講生が出ると実施協力者が付きっきりとなり負担が多い。そのため、来年度はもう少し簡易な課題で時間内にほとんど全員が完成できるように努めたいが、マンネリに気をつけて新しい教材も取り入れたいと思う。授業内容は、アンケート結果からほぼ満足してもらっており、成果に関しては十分であったと感じている。

【実施分担者】

柳澤 良一	文学部・教授
吉田 一誠	美術文化学部・講師
春名 亮	スポーツ健康学部・講師

【実施協力者】 10名

【事務担当者】

村上 昌也	経理部経理課・副主任
-------	------------